

4 実生系カーネーションを7～12月に継続的に収穫する方法

【要約】 実生系カーネーション‘カンカンスカーレット’は、3～5月に段まきし、ビニルハウス内で少量土壌培地耕で栽培することで、仏花や組花に利用できる切花長約40cmで3輪咲きの花が盆、秋彼岸、年末需要期を含む7～12月に継続的に収穫できる。

農業技術振興センター・花・果樹研究部・花き係

【実施期間】 平成29年度～平成30年度

【部会】 農産

【分野】 戦略的な生産振興

【予算区分】 県単

【成果分類】 指導

【背景・ねらい】

赤色のカーネーションは、関西仏花や加工用組花の花材として、盆、彼岸、年末時期に農産物直売所や花束加工業者からの需要が大きい。しかし、従来の本県の作型では7～9月には収穫できない。また、関西仏花や組花用途では草丈は40cmあれば十分である。

そこで、実生系カーネーションを盆、秋彼岸、年末需要期を含む7～12月にかけて約40cm規格で継続して収穫できる栽培方法を検討する。

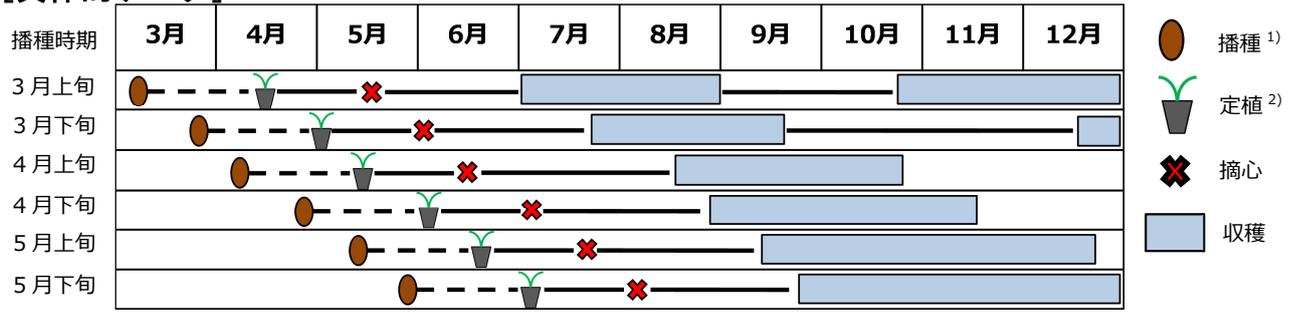
【成果の内容・特徴】

- ① 実生系カーネーション‘カンカンスカーレット’の購入種子を3月上旬から5月下旬に2週間毎に播種する（図1）。
- ② 定植から30日後に主枝の展開葉7枚を残して摘心する。生育の遅い側枝や軟弱な側枝は、草丈揃い30cm程度の頃に摘除する。花房では頂花蕾を摘除して3輪咲きとする。
- ③ この栽培法で1番花は、3月上旬播種では7～8月、3月下旬播種では7～9月、4月上旬播種では8～10月、4月下旬播種では8～11月、5月上旬播種と5月下旬播種では9～12月に収穫できる。また2番花は、3月上旬播種では10～12月に、3月下旬播種では12月に収穫できる（表1）。
- ④ 切り花長は一般のカーネーションより短いですが、切花長40cm以上は確保できるため、関西仏花や組花用途には十分である（表2、図2）。
- ⑤ 7～9月の高温期はソネット咲きとなり、雌雄ずいが露出する花の割合が高くなり品質が低下するため市場出荷には不向きである（表3）。しかし、直売所や地場販売で仏花等の添え花としては活用が可能である。

【成果の活用面・留意点】

- ① は種は128穴セルトレイに1粒播きする。約40日間、底面給水法により育苗する。発芽率、成苗率は80%以上となる（データ略）。
- ② 定植は、1プランター当たり10株植えとし、少量土壌培地耕で管理する。
- ③ 高温で草勢が弱まるため、6月よりハウス内温度の抑制のため、天井に遮光率50%の遮光ネットを展張する。
- ④ ビニルハウス（100㎡、300プランター）で3月上旬播種と4月下旬播種を組み合わせた作型の場合、粗収益354,000円（3,000株、20円/本として試算）、資材費130,000円、減価償却費86,000円（ハウス、少量土壌培地耕システム）で、収益は138,000円、労働時間は154時間と試算できる。

[具体的データ]



- 1) 培地はタキイ含水セル培土(中期肥効型)、覆土はパーミキュライト(S)を用いる。
- 2) 配合培養土は赤玉土小粒 5:t°-トヲ 2:バーク堆肥 2:バークライト 1 の割合とし、1 プランター当たり 10L 充填する。プランターは発泡スチロール製外径 74.5×24×14cm を用いる。液肥は OK-F-3(N-P₂O₅-K₂O=14%-8%-25%)の 1,000 倍希釈液を、定植翌日から 1 日に 3~5 回給液する。

図 1. 作型図

表 1. 播種時期の違いが収穫時期に与える影響

播種時期	月別切り花本数 (本/300プランター)						合計	1株当たり切り花本数(本/株)		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1番花	2番花	合計
3月上旬	12,563	7,500	0	450	1,313	1,500	23,325	6.7	1.1	7.8
3月下旬	938	13,688	3,600	0	0	38	18,263	6.1	0.0	6.1
4月上旬	0	3,675	7,613	1,725	0	0	13,013	4.3	—	4.3
4月下旬	0	413	9,113	4,500	338	0	14,363	4.8	—	4.8
5月上旬	0	0	4,088	6,188	2,138	1,163	13,575	4.5	—	4.5
5月下旬	0	0	563	6,263	4,613	3,075	14,513	4.8	—	4.8

表 2. 播種時期の違いが切り花品質に与える影響

播種時期	切花長 (cm)	切花重 (g)	茎径 ¹⁾ (mm)	花径 ²⁾ (mm)	下垂度 ³⁾	1番花		2番花	
						平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1番花	3月上旬	43.0 ± 4.4 ⁴⁾	13.5 ± 3.1	3.6 ± 0.5	30.4 ± 5.3	1.4 ± 0.8			
	3月下旬	44.2 ± 5.0	14.0 ± 3.6	3.3 ± 0.6	33.0 ± 5.5	1.5 ± 0.7			
	4月上旬	41.1 ± 6.3	13.3 ± 2.9	3.1 ± 0.4	35.0 ± 5.0	1.7 ± 0.8			
	4月下旬	43.7 ± 6.2	13.0 ± 3.0	3.1 ± 0.4	35.4 ± 5.4	1.7 ± 0.8			
	5月上旬	48.2 ± 8.3	14.7 ± 4.6	3.1 ± 0.5	39.1 ± 6.4	1.7 ± 0.8			
	5月下旬	45.8 ± 7.5	16.0 ± 4.3	3.3 ± 0.4	41.7 ± 6.6	1.4 ± 0.7			
2番花	3月上旬	46.9 ± 5.5	16.9 ± 4.0	3.4 ± 0.4	45.6 ± 5.0	1.1 ± 0.4			

- 1) 頂点から30cm部分を計測した。
- 2) 開花蕾の最大幅を測定した。
- 3) 切り花の先端から30cmの位置を水平に保ち、支点と花を結ぶ角度を数値化(1:10度未満、2:10~20度未満、3:20~30度未満、4:30度以上)とした。
- 4) 数値は平均値±標準偏差を示した。

表 3. 播種時期の差が雌雄ずい露出花の発生率に与える影響

播種時期	月別発生率 (%)						合計 (%)	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1番花	2番花
3月上旬播種	91.9	58.2	—	8.3	0.0	5.0	82.4	3.4
3月下旬播種	64.0	64.8	37.5	—	—	0.0	47.0	0.0
4月上旬播種	—	33.8	27.0	20.9	—	—	28.4	—
4月下旬播種	—	81.8	20.2	11.6	—	—	19.0	—
5月上旬播種	—	—	41.5	9.1	12.3	0.0	12.2	—
5月下旬播種	—	—	13.3	8.9	8.8	1.3	7.7	—



図 2. 関西仏花への活用例

[その他]

- 研究課題名
 - 大課題名：戦略的な農畜水産物の生産振興に関する研究
 - 中課題名：野菜等園芸作物や近江の茶の生産振興
 - 小課題名：関西仏花および組花加工向け花材の栽培方法の確立
- 研究担当者名：籠 洋 (H30)、今井 俊行 (H29)、北村 治滋 (H29~H30)
- その他特記事項：平成 30 年度滋賀県園芸振興大会 (花き部門) において発表。